

**さいたま市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録**

日時	令和5年8月8日(火) 16時15分～17時15分
場所	市役所本庁舎2階 特別会議室
出席者 (敬称略)	浅野委員、宇城委員、江原委員、大久保委員、太田委員、久保田委員、齋藤委員、長野委員、東谷委員、山口委員
欠席者	宇野委員、小林委員、中村委員
議題	1 市からの説明 (1) さいたま市まち・ひと・しごと創生有識者会議の趣旨・進め方の説明 (2) 地方創生に関するさいたま市の考え方 2 意見交換
公開又は 非公開の別	公開
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・資料1 委員名簿</li> <li>・資料2 席次第</li> <li>・資料3 さいたま市まち・ひと・しごと創生有識者会議の趣旨・進め方</li> <li>・資料4 地方創生に関するさいたま市の考え方</li> <li>・資料4-1 さいたま市の人口ビジョン</li> <li>・資料4-2 さいたま市総合振興計画の重点戦略について</li> <li>・参考資料1 さいたま市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱</li> <li>・参考資料2 重点戦略とKPI</li> </ul>
非公開の理由	
問い合わせ先	都市戦略本部 都市経営戦略部 電話 048-829-1035
その他	

**1 市からの説明**

資料3及び資料4をもとに、議題1(1)と(2)について各委員に内容を確認いただいた。

**2 意見交換**

各委員より、事務局の対応案のとおり進めることについてご理解いただいた(意見交換の内容は別紙のとおり)。

### ＜各委員からの意見＞

- ・教育に力を入れていることを、もっと発信すべきではないか。特に英語に関しては小学校から触れていることもあり、成績も素晴らしい。  
また、東日本の要衝として、交通利便性がとてもよく、便利で住み続けたい都市だと思う。  
【浅野委員】
- ・防災には自治会の役割が重要となる。自治会の物資等の情報や活動内容をもっと分かりやすく広報していく必要がある。【宇城委員】
- ・重点戦略の10の戦術を進めていくことで、地方創生に貢献できるのではないかと。さいたま市のデジタルに関する施策は他の自治体と比較しても進んでいると思うが、素晴らしい取組でも市民に知られていないことも多いため、発信力を強化していくことが必要ではないか。例えば、デジタルコーディネーターを活用している自治体もあり、さいたま市でも活用してみてもどうかと思う。また、感染症予防サービスにAIを活用しているが、もっとアピールすべきだと思う。【江原委員】
- ・地方創生のポイントをおさえた計画になっていると思う。特に、見沼たんぼの環境は素晴らしく、観光や社会科見学の資源として活用することも考えられるのではないかと。こうした自然豊かな見沼たんぼが広がる田園都市の中でデジタルの活用を進めていく、例えば、見沼たんぼ近くは都会と自然がモザイク状に広がっており公共交通機関での移動が不自由な地域もあるため、モビリティの充実にも取り組んでいくことで、先端技術を活用しながら豊かな自然環境の中で、高齢となっても安心して生活し続けることが可能になるのではないかと。また、大学では地域人材の育成に取り組んでいるが、若年層は転職への抵抗があまりなく、転職が本当に本人たちにとってプラスとなっているのか心配している。英語も重要だが、働くことの意義についても教育の中に取り入れてほしい。地域の中で働く場所があれば、人と人、人と仕事の繋がりが生まれ、まちづくりが上手くいくのではと思うので、そうしたところにも力を入れてほしい。【大久保委員】
- ・デジタル技術は万能ではないため、夢の世界を描きすぎないことが必要ではないか。最後は現実世界で人が重要になってくると思う。  
また、最近の世界情勢からエネルギーや食料の確保などの懸念が強まっている中で、食料の確保やエネルギーの自足をどのように行っていくのか、世界情勢などを踏まえた今後の方向性について記載があったほうが良い。【太田委員】

- ・魅力を生かした地域経済の活性化は良い視点だと思う。市内企業の製品等を全国に知ってもらう機会となるため、今後も企業交流の取組を積極的に続けて欲しい。

また、さいたま市は就労支援が充実しており、雇用対策協議会とも連携しながら、大学生向けの面接会等の取組や「ワークステーションさいたま」での子育て世帯を対象にしたセミナーや面接会などの取組等を行っており、もっとアピールしたほうが良いのではないかと。【齋藤委員】
- ・重点戦略2の戦術1には「子どもから高齢者まで」とあるが、対象を幅広くとらえるのではなく、少子化対策に焦点を絞った戦術を考えても良いのではないかと。他とのバランスもあるが、戦術として明確にしたほうが良い。【東谷委員】
- ・計画としてはとても素晴らしいと思うが、デジタル化については、誰も取り残さないという視点が必要である。

また、浦和美園のスマートシティの取組は素晴らしいが、こちらについても長期的な視野を持って、誰も取り残さないまちづくりを進めていく必要がある。浦和美園での実証実験の結果を市内で展開し、市全体に良い効果を波及させていく取組、デジタルも含め全てを取り残さない取組を盛り込めば、さらにいい計画になるのではないかと。【山口委員】
- ・デジタルには様々な可能性があるが、行政経営の観点からは、いかにデジタル化によりコストダウンを図れるかが重要となる。行政サービスには対人援助をはじめ人が行うこと、人が人と触れ合うことで提供できるサービスのある領域が多くある。高齢化が進む中で、そうした領域にかけるリソースを守るため、低コストを図るかを考えなければならない。

また、さいたま市は政令市として福祉分野などの専門職を大量に抱える中、彼らがいかにして能力を発揮するのかという視点でも、AI活用やDXは必要である。【長野委員】
- ・デジタル田園都市の「田園都市」とは単なる地方都市ではなく、郊外に広がる田園の中に都市を作り、人口が増えても田園を守りながら都市を自立させていく考え方であり、東西に見沼田んぼと荒川という田園がある、さいたま市にぴったりのものではないかと。

デジタルの力を活用して自宅で働きながら昼休みには見沼田んぼを散歩する、仕事で東京へ行く必要がある日だけ子どもを保育園に預けるといったように、市民が全てについて安心して生活できるようになった時、さいたま市がデジタル田園都市となるのではないかと。そのようなライフスタイルを将来のさいたま市像として描くことができればと思う。【久保田委員】